

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002899		
法人名	株式会社 楽		
事業所名	グループホームらく楽 (1階)		
所在地	豊中市稲津町3-5-5		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年4月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・防火用水として毎日水を貯め置きしている。 ・火災に備えて毎日役割分担を決め、名札をつけることで緊急時の対応が出来るようにしている。 ・個人的に馴染みの場所に施設の車で送迎している。 ・個人個人の写真を家族にらく楽だよりとして、近況報告を入れて、送付している。 ・ホームページの作成で他方面にも発信している。 ・非常持ち出し袋を常備している。 ・近隣の子供達や地域の人に施設の行事に参加してもらい楽しんでいただいている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>庄内駅から東北へ約10分の閑静な住宅街にある。利用者の立場になって、一人ひとりの意思・人格を尊重し「愛し、守る」地域にも愛され役立つことをホームの理念に掲げ、施設長以下全員が一体となって明るく楽しく毎日のケアの実践に努めている。居室やホームに閉じこもらず、極力外出の機会を作っている。恵まれた立地条件を活かし近くの公園や地蔵さんなど交通量の少ない閑静な住宅街の散歩や図書館での映画鑑賞、町会主催の民謡大会、手芸教室等各種地域のイベントに積極的に参加している。職員は優しく温かい思いやりを持って見守り、利用者一人ひとりが元気に明るくその人らしい生活が続けられるように支援している。施設長が町会長を初め子供を介しての地域住民と親密に交流を深め、たゆまなく地域に密着したサービスを実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を大切に常にその人らしく生活ができるような支援に向けた会議を月1～2回行いながら情報を共有し、また、ユニット毎の目標、理念を掲げ理念の実践の目標に向けて取り組んでいる。	毎朝夕のミーティングで施設長が理念に沿った支援を心掛けるよう全職員に訓話し、その共有を図っている。またフロアの随所に理念を掲示して、常に日々のケアに活かすよう工夫している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会長による町内の行事参加の声掛けや散歩時の挨拶、又軒下を借りての世間話でほとんど毎日交流している。野菜を頂いたり公民会での活動にも参加している。	施設長自ら町会長、地元有力者、民生委員等に積極的に働きかけ緊密な交流が図れている。町会の清掃活動、公民館活動、季節の祭りにも参加している。近隣の子供との触れ合いを通じて親・祖父母との交流も深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事に地域の子供達、お年寄りにも参加して頂きホームに入居されている方と会話や食事を楽しめるような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者やサービスの状況、行事などの報告を必ず行っている。状況をお話することによりサービス向上に繋がる案などがあれば職員会議を持ち活かす努力をしている。	隔月実施している運営推進会議には、行政及び関係機関、地域代表と利用者・家族が参加している。ホームのらく楽新聞を町会掲示板に掲示する事も町会長の提案で実現しホーム及び行事案内のPRに大いに役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会や運営会議でホームの課題を伝えている。体操のCDは今も活用している。又生活福祉健康課等に成年後見人制度の利用について相談し検討している。	市担当者とは成年後見、生活保護、介護認定等について随時相談し、アドバイスを受けている。また介護事業所連絡会議や地域福祉ネットワーク会議で得た情報を運営に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に家庭であるという認識を職員と共有し、身体拘束についての研修会や勉強会で指定期限や事例について学んでいる。日中は施錠せず安全で自由な暮らしを支え身体拘束は行わない姿勢を持っている。	ホームを家庭として捉え、鍵をかけない取り組みをしている。内部研修と外部研修を毎年受講して身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修は必ず受けている。社内勉強会で全職員が学ぶ機会を設け、虐待に繋がる対応がないかユニットごとで話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村主催の研修に参加し学ぶ機会を設けている。後見人制度は現在利用はないが、日常生活自立支援事業は活用している。今後個々に対応を検討して行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書は書類の詳細な部分まで説明を行い。質問点には時間をかけ確認しながら適切に答え、納得をいただいた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情は職員が傾聴してミーティングや連絡ノートなどにより共有し改善策を検討している。また、苦情処理箱の設置で苦情に対して迅速な対応をしている。	利用者の意見・苦情は日常のケア時、細かに聞き取り連絡ノート、苦情処理帳に記録してミーティングで検討し、迅速に対応している。家族の意見・要望は来所時間いて、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、全体会議やユニットごとの業務ミーティングに参加し、いつでも意見や提案を聞いている。検討して可能な事は実行している。	施設長と職員の関係は極めて良好で気軽に意見・相談できる。年1回の個別面談以外にも一寸した気配で悩みや課題の相談に乗っている。職員の意見提案は代表と十分に話し合い改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主に管理者が職員の状況を把握し、代表に伝えている。代表は施設に来て随時職員と意見交換し向上心を持って働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数を考慮した研修に参加するように働きかけ、研修参加後は社内勉強会で報告を行い研修内容を全職員で共有している。又報告書の作成で再度学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所で開催される講習に参加したり、事業所連絡会や研修の参加で職員との交流を図り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安、疑問の訴えには傾聴し、利用者が安心して納得されるように努めている。また、相談の際は居室にてゆっくり傾聴し、思いを受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を頂いたときはゆっくり時間を気にせずお話を聞いている。また、対応の内容も明確にしホームでの対応状態を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けてもすぐに入居には繋げず、他のグループホームや他のサービス利用も提案し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は人生の先輩として昔の風習や、ことわざ、料理など教わり、又若い職員は現在の社会の流れについて話したりし時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪の時は普段の様子を伝えたり、介護記録を開示し、またケアについて家族の意向を尋ね、利用者又家族の意向に添えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にいたところからの友人の来訪や宗教への参加、市町村の催しへの参加やホームでの行事への参加を呼びかけ気軽に尋ねて頂けるように努めている。	友人の来訪もあるが、希望により馴染みの寺、神社、教会や昔住んでいた地域にホームの車で案内して関係を維持するよう積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩時に足の悪い利用者と健全な利用者と手を繋いで頂きコミュニケーションが図れるように努めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院している病院にお見舞いに行ったり、主治医との面談時に普段の様子等伝えている。また死亡時は全員職員が葬儀に参列している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介護の中で見せる仕草や表情を基にセンター方式を使用し職員全員が共有し又カンファレンスを持ち本人の思いに近づけるように努めている。	アセスメントシートを基に過去の生活歴を把握し、個々の思いや意向を汲み取り、職員皆でその情報を共有して、その人らしい暮らしが続けられるよう日々のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での暮らし方や生活環境、これまでのサービス利用の経過など情報は利用者との会話のなかや家族の面会時に把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れが身体状況、精神状況の変化を見逃さないように努めている。申し送りや介護記録、職員間の情報により職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向に基づき、プランを作成した上で実際に取り組み、職員の意見や情報を集め、見直しをしながら話し合っ作成している。	利用者・家族の意向をベースに、看護師の意見も取り入れて職員全員が担当者の考えで、皆で3ヶ月毎に計画の見直しをしている。状態の変化が見受けられたら随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を立案した後、それぞれの利用者についての変化や気づきに対し意見交換し病状の変化に対応できる様ケアチェックを個々に作成することで計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応し、医療体制のある施設の紹介や本人の希望、家族の希望を組み込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館での映画放映を毎週日曜に鑑賞したり、民生委員を通じてボランティアによる行事の参加や、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の本人や家族の希望のかかりつけの病院に、施設の車で受診が受けられるようにしている。	本人・家族の希望に沿って、かかりつけ医の継続受診をホームの車で施設長自ら支援している。ホームの協力医の訪問診療も、適宜受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時にはケヤマネージャーと担当の職員がつき口頭や日誌等で利用者の状況を伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供し、生活状況を細かく伝え、退院時には、本人、家族、主治医、職員と退院計画を話し合っている。退院後も情報交換や相談できる関係を継続している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、家族に指針の説明を行い、段階ごとに医師を交え、現状説明をし意思確認を行っている。	入所時、重度化・終末期ケアに関するホームの指針を説明し、意思確認して同意書を作成している。看取りは原則行わないが家族の強い意向に沿って、医師の指導の下過去1人の看取りを行った。職員の貴重な経験・自信となり職員同士の結束が強まった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関に24時間オンコールの体制を取り迅速に対応している。職員全員が救急救命講習を定期的な受け蘇生法を身につけている。連絡網を作成し、異常時に備え連絡の徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員に毎日通報、初期消火、誘導、などの役割を記した札を身につけて火災時に迅速に対応できるように備えている。また備蓄品と防火用水の備えをしている。避難訓練を地域の方と定期的に行っている。	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施している。万一の非常災害に備えて、職員は毎日日替わり役割分担札を身につけて意識付けしている。また3日間の備蓄品と防火用水を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けには十分注意した対応を行っている。記録を記入する際にも配慮している。	人格の尊重を理念に掲げ毎年研修を実施している。施設長が常に一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について指導を徹底し且つ職員同士で注意し合ってマンネリを防いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるように促したり、受容体となるような一人一人に合わせた馴染みの声掛けの工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりのペースに合わせ、生活のリズムや体調を崩すことのない程度に支援し利用者の希望を優先し、ケアに取り組むことに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を優先し、馴染みの美容院への支援を行っている。更衣時には本人に服を選んでもらい職員がアドバイスしながら満足できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や配膳、下膳を無理強いをしないように声掛けをし、行っている。また一緒に同じものを食べることにより会話が弾み楽しい時間の共有が出来るようにしている。	出来るだけ個々の嗜好にあわせ職員が新鮮で季節感のある食材を近くのスーパーで調達し交代で調理している。元調理師の利用者が味見を担当している。利用者は配膳、下膳等を手伝い職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職員が利用者の好みや状態を把握し、容器の選択やとろみをつけるなどの個々に合った介助方法で摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促す声掛けをし、毎日義歯は洗浄剤につけている。歯科受診時には、医師へ日頃の歯磨きの様子を伝え個々に合った歯磨きの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人排泄表で排尿パターンを把握し、状況を見極め時間ごとの誘導の声掛けを工夫し、自立した排泄を促している。	排泄表で個々のパターンを把握し、気配を察知してこまめにトイレ誘導し自立した排泄に努めている。このため入所前、病院でのオムツ常用者が外せるようになって本人は勿論家族から喜ばれた事例が4~5件ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材の提供と水分摂取、個々に応じた毎日の運動に取り組み、服薬に頼らず、自然排便を促せるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせた声掛けをし、拒否の意思が聞かれた時は無理強いせず、時間を置いたり、入浴剤で入浴が楽しめるような支援をしている。	入浴は週3回を基本としている。入浴を嫌がる人には、足浴を勧めて浴場まで誘導すれば殆んどの場合入浴し、温まってサッパリ感を味って喜んでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、寝具の調整を行っている。夜間良眠出来ない時には申し送り、休息時間の提供や安心できるような関わりを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には薬剤師や主治医に説明を受け、全職員が把握できるようにしている。服薬時は本人と確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事など利用者に合わせた役割を持ってもらえるよう支援をしている。状況をみながら散歩や買い物などで気晴らしを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの美容院で迎えにきて頂いたり家族と外食を楽しまれたり、サークルの方に迎えにきていただき交通機関を利用しての外出も支援している。	天候と体調に問題がない限り、極力外に出て新鮮な空気を吸い、風・日光を全身に浴びて五感を刺激し、気持ちをリフレッシュすることを一番に考え支援している。道すがら近隣の子供や大人との交流を深め地域の一人として溶け込むようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じ本人が管理している。又買い物には職員が同行し、本人が支払できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい思いがある時には援助しながら、自由に電話したり、能力に応じて職員が手紙のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の生花を絶やさず置き、季節感がある環境を作っている。食事の席を親しい人と近くにしたり雨の日には、廊下を明るくしたりしている。	玄関や廊下、食堂兼リビングの壁に、季節の花や利用者の絵・習字等の作品と地域住民寄贈の写真・作品が飾られて居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りで新聞を読んだりできる場所を設けている。リビングの片側には少人数でゆっくり過ごすことのできるソファを置き、くつろげる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や寝具を持ち込んでいただき、馴染みの空間が取になるよう工夫をしている。	居室には馴染みのタンス、鏡台、仏壇等の家具が持ち込まれ、思い出の小物や家族の写真も飾られて、家族との繋がりを何時までも大切に工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室わかるようにドアの配色や自室、洗面所に表札をつけ風呂場には暖簾を設置し混乱を防いでいる。		